

ネオシスファーストEG

ネオシスファーストS

お子さまの安全のため、ご使用前に必ず本書を読み、十分ご理解のうえ、記載された内容に従い正しくお使いください。

本書は、シートクッション後ろ側のポケットに保管してください。(10ページ参照)

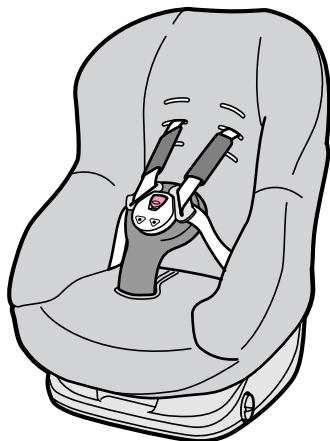
チャイルドシートを他のお客さまにお譲りになる場合は、必ず本書もあわせてお渡しください。

安全運転を励行してください。

裏表紙の品質保証書の欄に必要事項をご記入ください。

ロックングリップがあることを確認してください。

品質保証書付



この取扱説明書は、再生紙を使用しています。

も
く
じ

お使いいただく前に	1
安全にお使いいただくために	3
各部のなまえ	9
車に取り付ける前に	11
お子さまの座らせかた	12
バックルのとめかた	13
ベルトロックレバーの使いかた	14
肩ベルト通し穴の位置の決めかた	15
幼児用ベルトの長さ調節のしかた	17
リクライニングの使いかた	18
インナークッションの使いかた	19
車への取り付けかた	22
シートベルトの種類と取り付け上の注意点	23
2.5kg～9kgのお子さまには	
後向き取り付けの準備	24
取り付け角度コントロールシステムの使いかた	25
3点式シートベルトの座席への取り付けかた	27
ロックングリップの取り付けかた	29
2点式シートベルトの座席への取り付けかた	31
後向き取り付け時完了チェックのしかた	33
9kg～18kgのお子さまには	
前向き取り付けの準備	34
座席への取り付けかた(3点式/2点式)	35
前向き取り付け時完了チェックのしかた	38
お手入れのしかた	39
製品仕様	43
こんなときには	44
幼児用ベルトがロックしたときの解除方法	44
より確実に固定する方法	44
車のバックルが、シートベルト通し穴の角に当たる場合	45
角度チェッカーが「危険」をさしているときには	46

お使いいただく前に

このたびは、コンビチャイルドシートをお買い上げいただき、ありがとうございました。ご使用前に、この取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。

チャイルドシートは、交通事故などの場合にお子さまの傷害を軽減することを目的としており、必ずしも事故からお子さまを無傷で守るものではありません。
またチャイルドシートを使用するときには、必ず保護者の方が同乗してください。

お使いいただけるお子さまの条件

次の条件をすべて満たすお子さまにお使いいただけます。

体重：2.5kg以上～18kg未満のお子さま。

(参考年齢...0カ月～4才ころ)

- 座らせたときに胸あてパッドとあごとの間に、3cm以上のすき間があくこと。
- 2.5kg～7kg未満のお子さまは、インナークッションを取り付けて使用。(19～21ページ参照)

身長：チャイルドシートに座らせ、**後頭部が背もたれから上に出ない**お子さま。

取り付けできない座席

下記以外の座席でも、チャイルドシートをしっかりと固定できない場合には使用しないでください。

シートベルトの付いていない座席。



ELR付き2点式シートベルトの座席。

ELR付き2点式シートベルトとは

...腰の左右2点で支えるシートベルトで、通常、ゆっくり引くとベルトを自由に出し入れでき、急ブレーキや衝突などの衝撃を感じたときにはベルトが固定します。

(ELR：緊急ロック式ベルト巻き取り装置)



シートベルトが座席の中間から出ている座席。

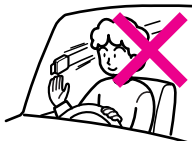
...チャイルドシートのシートベルト通し穴の位置よりも、前方向からシートベルトが出ている座席。



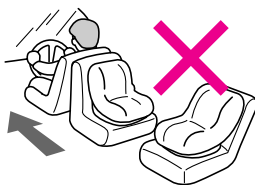
次の条件のいずれか1つでもあてはまる場合は、その座席ではお使いいただけません。

パッシブシートベルトの付いた座席。

パッシブシートベルトとは
...車の座席に座ってドアを閉めると、自動的にシートベルトを装着してくれる装置のこと。とくに輸入車に多くみられます。(オートマチックシートベルト)

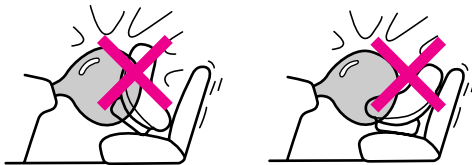


進行方向に対して横向き、または後向きの座席。

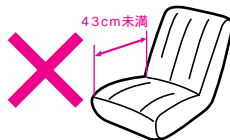


エアバッグ装備の座席。

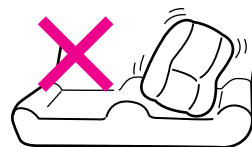
...サイドエアバッグのみの場合には使用できます。



座席の奥行きが43cm未満の場合。

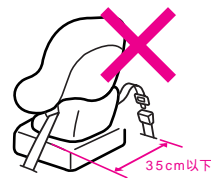


シートの中央が極端に盛り上がっていて、取り付けたときに不安定になる座席。



シートベルトの取り付け幅が35cm以下の場合。

シートベルトが座席の端にあたっているとところから、バックルの付け根までの長さ。



バケットシート。

...座面の中央が深くへこんでいる座席。

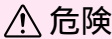

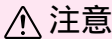


チャイルドシートは前座席・後座席ともに取り付けられますが、より安全な後座席への取り付けをおすすめいたします。

安全にお使いいただくために

お使いいただく前に

「危険」、「警告」、「注意」の表示は、これらの注意事項が守られなかった場合に予想される、危害・損害の、切迫度や大きさにより区分したもので、大変重要な内容です。必ずお守りください。

表示	表示の内容
 危険	誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う危険が切迫して生じることが想定される内容です。
 警告	誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容です。
 注意	誤った取り扱いをすると、人が傷害を負ったり、物的損害が起こる可能性があります。

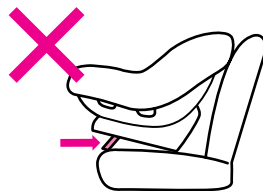
危険

次のような使いかたは、チャイルドシートが本来の機能を果たさず、危険をまねく恐れがあります。

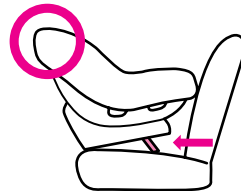
使用条件に**適合しないお子さま・座席**などでは、使用しないでください。



前向き取り付け時には**角度アジャスター**を収納してください。また、後向き取り付け時には、必ず**角度アジャスター**で角度を調節してください。(25ページ参照)



前向き取り付け時

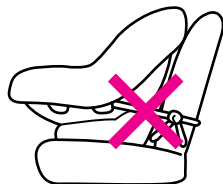


後向き取り付け時

⚠ 危険

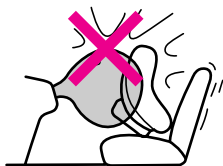
車に取り付けるときは、必ず車のシートベルトで固定してください。

ひもなど、シートベルト以外のもので固定しないでください。



エアバッグが装着された座席では、チャイルドシートを使用しないでください。衝突時、エアバッグの作動により大きな衝撃を受け、危険です。

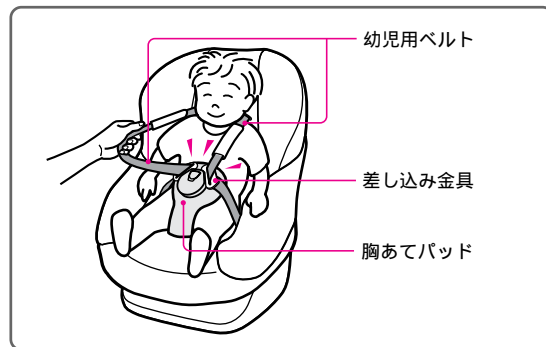
...サイドエアバッグのみの場合には使用できます。



車のシートベルトおよび座席の種類などにより、取扱説明書どおりにチャイルドシートをしっかりと固定できないときは、他の座席に取り付けてください。



お子さまがチャイルドシートの上に立ったり、中腰になったり、正座をしないように注意してください。座らせたときには、お子さまに胸あてパッド、幼児用ベルトが正しく装着され、左右の差し込み金具がしっかりバックルに差し込まれ、表示が緑色に変わっていることを確認してください。



安全にお使いいただくために

⚠ 警告

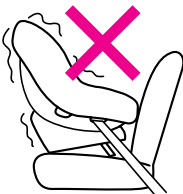
次のような使いかたは、チャイルドシートが本来の機能を果たさず、危険をまねく恐れがあります。

幼児用ベルトがたるんだ状態で使用しないでください。ベルトが首に巻き付き、窒息する恐れがあります。

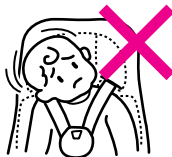
幼児用ベルトは正しい長さに調節してください。(17ページ参照)



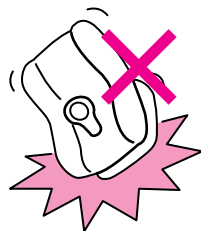
後向きで使用するときは、**リクライニングを最も倒した状態**で取り付けてください。立った状態では、しっかり固定できません。



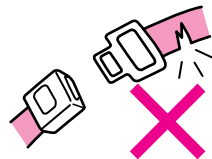
7kg未満の小さな赤ちゃんを乗せる場合には、必ず**インナークッションを正しく取り付け**て、お子さまの体にフィットした状態で使用してください。



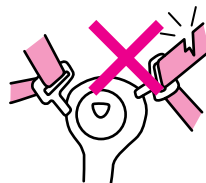
衝突事故や製品を落下させたときなど、1度でも**強い衝撃**を受けたチャイルドシートは、外見上の破損がなくても、**絶対に使用しない**てください。



車のシートベルトに傷がある場合は、その座席に取り付け
ないでください。



幼児用ベルトに傷が付いたときは、ご使用にならないでください。修理の必要がありますので、弊社のお客様相談室にお問い合わせください。



警告

お子さまがバックルボタンを押してしまう可能性があります。ときどき、差し込み金具がバックルからはずれていないことを確認してください。はずれていると本来のはたらきをせずさらにベルトが首に巻き付く恐れもあります。



お子さまを車内に1人で放置しないでください。

日ざしの強い日などには、車内の温度も高くなり、お子さまが脱水症状になる恐れがあります。また予期せぬ事故の元となります。必ず保護者の方が同乗してください。



お子さまがチャイルドシートから抜け出したりしないよう、座らせたときには、必ずベルトロックレバーで幼児用ベルトをロックしてください。

(14ページ参照)



次のような使いかたは、同乗している方に危険をまねく恐れがあります。

お子さまがチャイルドシートに乗っていないときでも、必ずシートベルトで固定しておいてください。急ブレーキをかけたときなど、車内に転がり、運転の妨げとなることがあります。



車の前座席に、チャイルドシートを後向きに取り付け、助手席側のドアミラーが見えにくいときは、後座席に取り付けてください。



シフトレバーやパーキングブレーキなどの運転操作に支障をきたす場合は、助手席に取り付けしないでください。



2ドアや3ドアの車で後座席に人が乗る場合は、チャイルドシートを助手席に取り付けしないでください。緊急時の脱出の妨げになります。



安全にお使いいただくために

お使いいただく前に

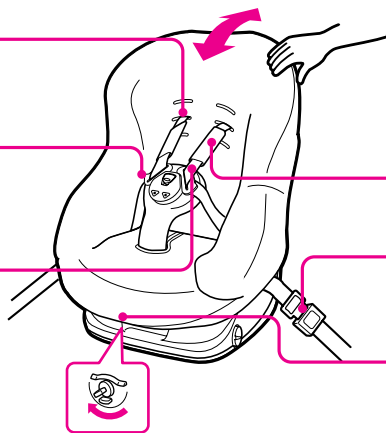
⚠ 警告

チャイルドシートの本来の機能を果たすため、走行前には、次の事項を点検してください。

幼児用ベルトが幼児用肩ベルト
通し穴の正しい位置にセットさ
れていること

差し込み金具がしっかりとバック
ルに差し込まれ、差し込み表示が
緑に変わっていること

幼児用ベルトのロックがしっかりと
かかっていること（幼児用ベル
トを引いて、確認してください）



チャイルドシートが車の座席に
しっかりと固定されていること
（本体を前後にゆすり、確認して
ください）

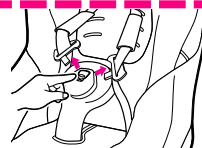
幼児用ベルトにねじれやたるみがないこと

車のシートベルトの差し込み金具が
しっかりとバックルに差し込まれて
いること

前向きでも、後向きでも、お子さま
を乗せてから、必ずベルトロックレ
バーで幼児用ベルトをロックしてく
ださい

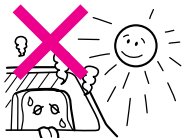
緊急の場合には

事故など緊急時は、あわてず、保護者の方が胸あてパッドのバックルボタンを押し、幼児用ベルトをはずして、すみやかにお子さまを車外に脱出させてください。



⚠ 注意

チャイルドシートに直接日光が当たると、本体や差し込み金具などが熱くなり、お子さまが**やけどをする恐れ**があります。お子さまを座らせる前に各部にさわり、やけどをしないことを確認してから使用してください。また**お子さまを座らせていないときも、差し込み金具をバックルに差し込んでください。**



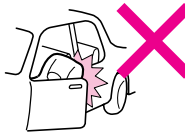
走行中は、チャイルドシートの操作や調節をしないでください。また、同乗している他のお子さまがチャイルドシートに触らないようにしてください。



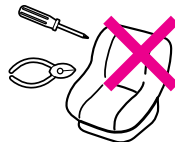
チャイルドシートを通常の椅子として使用すると、転倒してけがの原因となります。この**取扱説明書に記載されている使いかたで使用**してください。



チャイルドシートを車のシート可動部やドアにはさまないように、十分注意してください。



チャイルドシートを**改造しない**でください。また、本書に記載されていない取り扱いをしないでください。



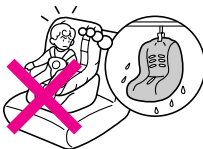
車の座席にクッションや**座布団などを敷いたまま、チャイルドシートを取り付け**ないでください。チャイルドシートがしっかり固定されません。



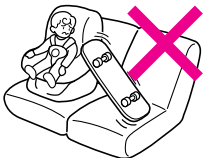
ロッククリップをチャイルドシートを固定する以外の目的で使用しないでください。

チャイルドシートを**風雨にさらさない**でください。

シートクッションなどの縫製品や、ウレタンなどのクッション材をはずしたまま使用しないでください。また、本製品以外のものと取り替えたりしないでください。(衝突時の安全性能に影響を与える恐れがあります)



固定されていないものを車内に放置しないでください。(急ブレーキや衝突の際に、お子さまにあたる恐れがあります)

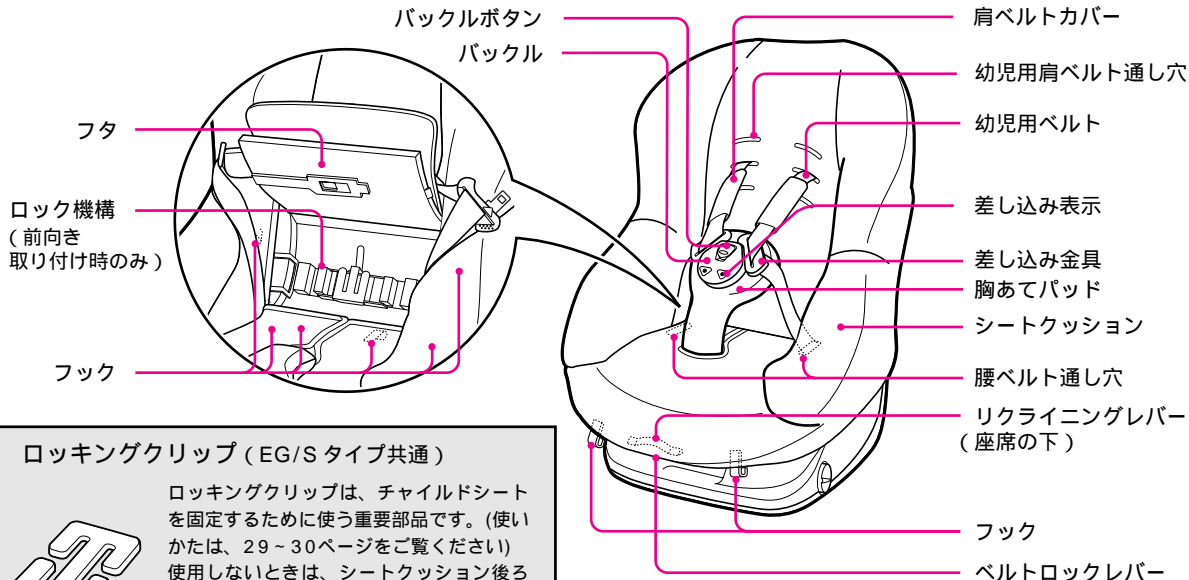


各部のなまえ

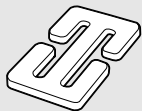
ご使用前に、各部品がそろっていることをご確認ください。

お使いいただく前に

正面



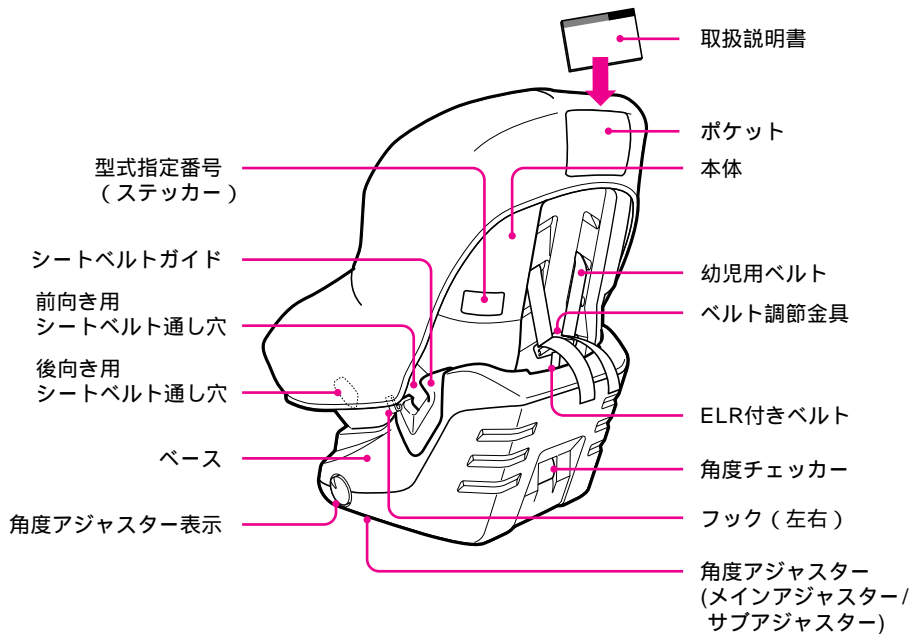
ロッキングクリップ (EG/S タイプ共通)



ロッキングクリップは、チャイルドシートを固定するために使う重要部品です。(使いかたは、29～30ページをご覧ください) 使用しないときは、シートクッション後ろ側のポケットに取扱説明書とあわせて保管してください。

ロッキングクリップを紛失された場合は、43ページをご覧ください。

背面・側面



インナークッション

EGタイプ
背面用



座面用



Sタイプ
背面用



座面用



お使いいただく前に

車に取り付ける前に

ここでは、お子さまの体重による取り付けの向きと正しい座らせかたを説明しています。またお子さまの体に合わせてチャイルドシートの幼児用ベルトの長さ、肩ベルトの位置などを調節してください。

お子さまの成長に合わせて、2つの使いかたができます。

体重 2.5kg ~ 9kg まで(0カ月ころ ~ 1才ころまで)

後向き使用...**前向きでは、絶対に使用しないでください。**
7kgまでのお子さまには、インナークッションを取り付けて使用
リクライニングを最も倒した状態で使用
角度アジャスターを使用(取り付け時に、角度チェッカー表示が適切であることを確認してください)



体重 9kg ~ 18kg まで(1才ころ ~ 4才ころまで)

前向き使用
インナークッションを取りはずして使用
リクライニング3段階使用可(取り付け後、リクライニングでチャイルドシートを倒すことができます)
角度アジャスターは収納状態



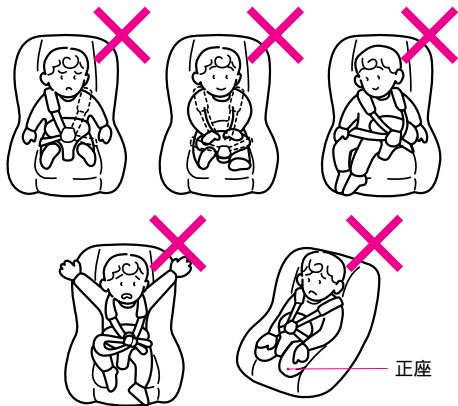
お子さまの座らせかた

車に取り付けてからでは、チャイルドシートを調節できません。取り付け前に、お子さまを座らせ、ベルト通し穴の位置や幼児用ベルトの長さをお子さまの体に合わせてください。

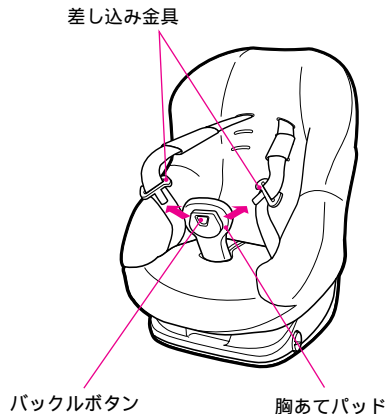
胸あてパッドは、ねじったり、折り曲げたり、乗ったりしないで、ていねいに扱ってください。胸あてパッドが破損し、本来の機能を果たさないことがあります。

お子さまを座らせるときには、下図のような座りかたをさせないでください。チャイルドシートが本来の機能を果たさず、危険をまねく恐れがあります。

警告



1 バックルボタンを押して差し込み金具を抜き、胸あてパッドを前に倒し、お子さまを座らせます。

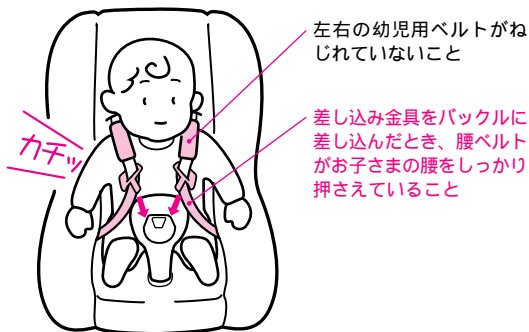


車に取り付ける前に

バックルのとめかた

車に取り付ける前に

- 1** お子さまを座らせて、左右の腕を幼児用ベルトに通し、差し込み金具を「カチッ」と音がするまでバックルに差し込みます。

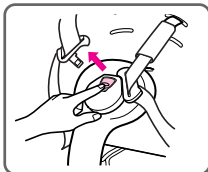


ワンポイント

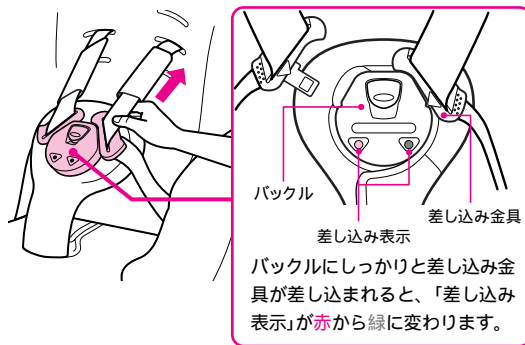


バックルボタンを押すと、差し込み金具がはずれます。

お子さまを座らせていないときも、差し込み金具をバックルに差し込んでおいてください。



- 2** 差し込み金具を軽く引き、差し込み表示が**緑色**に変わっていることを確認してください。



警告

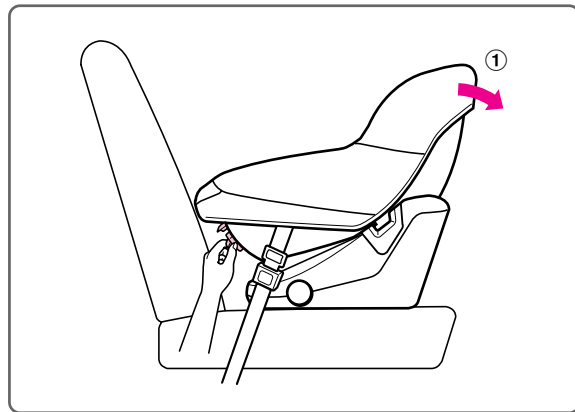
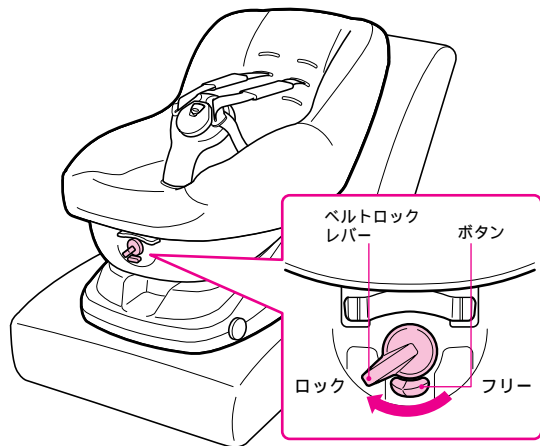
左右の差し込み金具が、完全にバックルに差し込まれて表示が緑になっていないと、衝突時に子供が飛び出す恐れがあります。

差し込み金具が確実に固定されていないと、差し込み金具がはずれ、ベルトが首に巻き付き窒息するなどの恐れがあります。

ベルトロックレバーの使いかた

お子さまをチャイルドシートに座らせたときには、必ずベルトをロックしてください。幼児用ベルトが伸びなくなり、お子さまがチャイルドシートから抜け出すことを防ぐことができます。

- 1 ベルトロックレバーの下にあるボタンを押しながら、レバーを回します。



ワンポイント



後向きで使用する場合にも、必ずベルトをロックしてください。手が入りにくい場合は、車のリクライニングを1段立てるか、本体の背もたれを①方向に押して操作してください。（その際、車のドア側ではなく、内側から行くと操作しやすくなります）



警告

ベルトがロックされない状態では、お子さまが抜け出したり、幼児用ベルトが首に巻き付く恐れがあります。お子さまがチャイルドシートに座られたら、前向き使用でも、後向き使用でも、必ずベルトをロックしてください。

車に取り付ける前に

肩ベルト通し穴の位置の決めかた

お子さまを座らせたとき、お子さまの肩の高さよりも、肩ベルトが下にある場合は、お子さまの肩のすぐ上になるように幼児用ベルトの位置を変えてください。(工場出荷時は一番下になっています)

車に取り付ける前に

低月齢のお子さまの場合

体重7kg未満のお子さまの場合は、「肩ベルト通し穴の位置の決めかた」と「幼児用ベルトの長さ調節のしかた」については、**特に注意してください。**

⚠
危険

肩ベルト通し穴の位置と幼児用ベルトの長さが適正かを確認してください。

幼児用ベルトが正しく肩にかかっていることを確認してください。

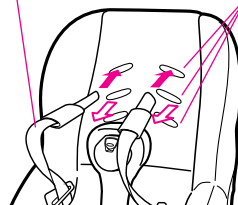
これらの調節が誤っていると、車の衝突時にお子さまがチャイルドシートから飛び出してしまう恐れがあります。

⚠
注意

1時間以上は連続使用しないでください。

- 1 本体裏側のベルト調節金具から幼児用ベルトを引き抜き、お子さまの体に合った肩ベルト通し穴に入れ直します。

幼児用ベルト 肩ベルト通し穴



幼児用ベルトは、着座したお子さまのすぐ上の肩ベルト通し穴に通してください。

⚠
警告

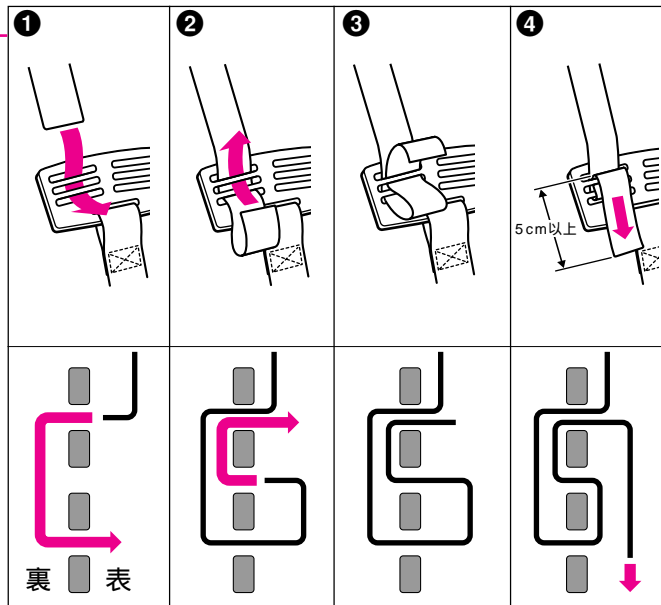
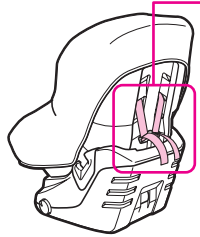




幼児用ベルトをベルト調節金具から引き抜いてはけません。

肩ベルト通し穴の位置がお子さまの体に合っていないと、衝撃が加わったときに幼児用ベルトが肩からはずれ、お子さまを正しく保持できません。
肩ベルト通し穴は、左右同じ高さの穴を使用してください。

2 ①～④の手順で、背面の幼児用ベルトをベルト調節金具に取り付けます。



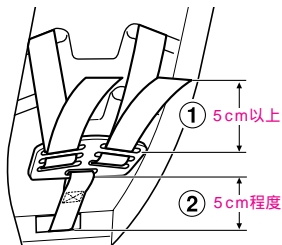
幼児用ベルトの長さ調節のしかた

お子さまの体に合わせて、座らせた状態で幼児用ベルトがフィットするように長さを調節します。

車に取り付ける前に



幼児用ベルトがベルト調節金具からはずれるのを防ぐため、図①に示すように必ず幼児用ベルトを**5cm以上余らせてください**。



図②のようにベルト調節金具を**5cm程度引き出した位置**でセットしてください。

幼児用ベルトをたるませて使用すると、ベルトが首に巻きつき窒息する恐れがあります。

ツボポイント

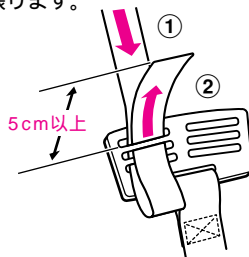


お子さまと幼児用ベルトの間に、**大人の手のひらが入りますか**。きつかったり、ゆるかったりするときには、幼児用ベルトの長さを調節してください。



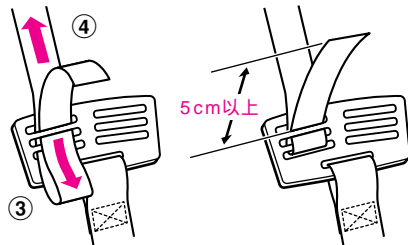
幼児用ベルトを短くするには

矢印①の方向に幼児用ベルトを引き、たるみをもたせて、②の方向に引っ張ります。



幼児用ベルトを長くするには

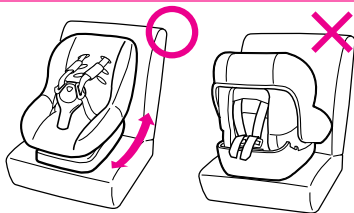
矢印③の方向に幼児用ベルトを引き、④の方向に引っ張りません。



リクライニングの使いかた(前向き使用時のみ)

前向きで使用する際には、お子さまが寝たときなどのために、車のシートベルトをゆるめずにチャイルドシートを寝かせることができます。後向きで使用する場合は、最も寝かせた状態で取り付けてください。

後向き使用時にはリクライニングを使用しないでください



後向きの場合、リクライニングで起こさないでください。



リクライニング操作は、必ず車を停車させて行ってください。

ワンポイント

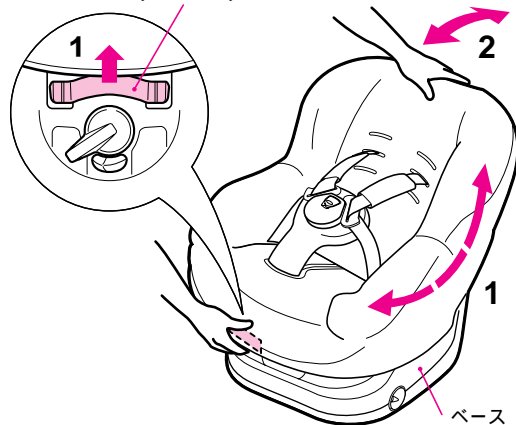


取り付け後、リクライニングしづらい場合は、車の背もたれを1~2段リクライニングさせてから操作してください。リクライニング後、車の背もたれをチャイルドシートに接するように再度起こしてください。

車の座席がリクライニングできない場合や座席の形状によっては、チャイルドシートのリクライニングが使用できないことがあります。

- 1 チャイルドシートの座席の下にあるリクライニングレバーを手前に引き、リクライニング角度を調節します。(3段階)
- 2 レバーから手を離して本体を前後にゆすり、しっかりロックされた状態であることを確認してください。

リクライニングレバー
(座席の下)



インナークッションの使いかた(7kgまでのお子さまには)

インナークッションは、小さな赤ちゃんを保護するためのものです。お子さまの体重が7kg未満の場合には、必ずインナークッションをお使いください。

車に取り付ける前に



危険

インナークッションが使用できるのはお子さまの体重が7kg未満のときだけです。7kg以上で使用すると、本来の機能を果たさず危険です。

インナークッションは、取り付けかたをよくお読みになり、正しく使用してください。



注意

はずしたインナークッションを車室内に放置しないでください。急ブレーキをかけたときなど、車内に転がり、運転の妨げとなることがあります

チャイルドシートを持ち運ぶときには、インナークッションを持たないでください。

長時間の使用禁止

長時間連続してのご使用は、お子さまに負担となります。1時間程度をめやすに休憩をとるなどしてください。

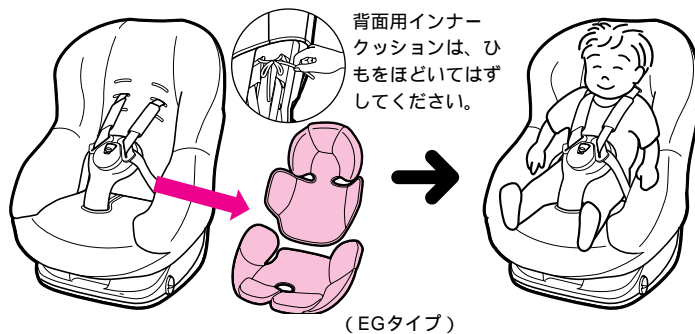
保護者の同乗

できるだけ運転者以外に同乗者が乗り、お子さまから目を離さないでください。やむを得ず、運転者以外に同乗者がいない場合は、安全運転に留意し、休憩時などにお子さまの様子をご確認ください。

1 7kgまでのお子さまが使用する場合は、インナークッションを付けたまま使用してください。



2 7kg～18kgのお子さまが使用する場合には、インナークッションをはずして使用してください。



インナークッションを取り付ける場合は、肩ベルトより1段上の穴に通し、裏側で結びます。

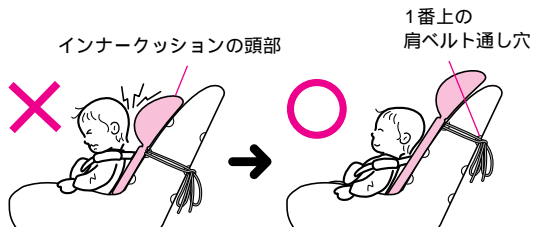
インナークッションの頭部がきゅうくつな場合は、次のページをご覧ください。

インナークッションの使いかた

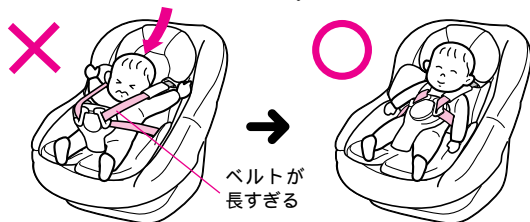
インナークッションを取り付けてチャイルドシートを使う場合は、以下の点にご注意ください。

インナークッションの頭部が窮屈な場合
インナークッションの頭部が窮屈な場合は、1番上の肩ベルト通し穴に取り付けてください。(それでも窮屈な場合は、インナークッション座面用に入れられているウレタンを取りはずしてください)

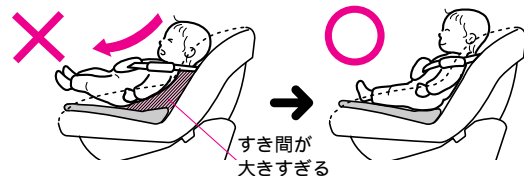
2番目の穴が適切な場合もあります。



肩ベルトの長さを正しく調節してください
肩ベルトの長さ調節がゆるいと、お子さまがずり落ちやすくなります。正しい長さに調節してください。
(「取扱説明書」17ページ参照)



正しく座らせてください
お子さまをチャイルドシートの座面に深く、しっかりと座らせてください。座らせかたが浅いと、お子さまがずり落ちます。



車への取り付けかた

ここでは、シートベルトの種類と取り付け上のご注意と、角度チェッカーの使いかた、後向き取り付けかた、前向き取り付けかたを説明しています。

車の座席の形状などにより、取り付けできない場合があります。詳しくは1ページを参照してください。



危険

チャイルドシートがしっかりと固定できない場合は、本来の機能をはたさず大変危険ですので、他の座席に取り付けてください。

車への取り付けは、ひもなど、シートベルト以外のものでも固定しないでください。

エアバッグが装着された座席では、チャイルドシートを使用しないでください。衝突時、エアバッグの作動により大きな衝撃を受け、危険です。

サイドエアバッグのみの場合には使用できます。



警告

車のシートベルトに傷がある場合は、その座席に取り付けしないでください。

助手席にチャイルドシートを取り付けてドアミラーが見えにくい場合は、後座席に取り付けてください。

お子さまが乗っていないときでも、チャイルドシートは必ずシートベルトで常に固定しておいてください。

シフトノブやサイドブレーキなど、運転に支障をきたす場合は、助手席に取り付けしないでください。

2ドア・3ドア車で後座席に人が乗る場合、緊急時の脱出の妨げになりますので助手席にチャイルドシートを取り付けしないでください。

シートベルトの種類と取り付け上の注意点

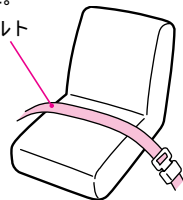
チャイルドシートは、シートベルトの種類により取り付けられない場合や、取り付け時にロックングクリップが必要な場合があります。下表をご覧ください。ご使用の車のシートベルトの種類をご確認ください。下表ではわからない場合には、車の取扱説明書をご覧ください。

車のシートベルトの種類 (シートベルトの方式)	特徴 (見分け方)		取り付け時の注意点	
			後向き取り付け時 (2.5kg～9kg)	前向き取り付け時 (9kg～18kg)
ELR付き シートベルト (緊急ロック式ベルト 巻き取り装置付き)	ゆっくり引くと自由 に出入りし、勢いよく 引くとロックする。	3点式	ロックングクリップを 必ず使用。	本体内部のロック機構 を必ず使用。
		2点式	取り付けできません。	取り付けできません。
チャイルドシート固定 機能付きベルト (AELR付きシートベ ルト)	ベルトを全て引き出 した後に巻き戻すと自 動的に縮まり、それ以 上伸びなくなる。(ベ ルトを全て巻き戻すと 解除される)	3点式 2点式共通	ロックングクリップ不 要。ただし、安定しな い場合はロックングク リップを使用。	本体内部のロック機構 を必ず使用。
マニュアル式 シートベルト	巻き取り装置の付い ていないシートベ ルト。	3点式 2点式共通	ベルトの長さを調節し 固定する。ただし、安 定しない場合はロック ングクリップを使用。	本体内部のロック機構 を使用せず、ベルトの 長さを調節して固定す る。
NLR付き シートベルト	ロック機能のない 巻き取り装置付き シートベルト。	3点式 2点式共通		
ALR付き シートベルト	ベルトを引き出す途 中で止めるとロック され、それ以上引き 出せなくなる。	3点式 2点式共通	必要な長さを引き出 して固定する。ロック ングクリップ不要。	本体内部のロック機構 を使用せず、ベルトの 長さを調節して固定す る。

2点式シートベルトとは

図のように、左右の腰ベルトの2点で体を支えるシートベルトのこと。

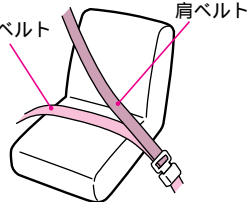
腰ベルト



3点式シートベルトとは

図のように、腰ベルト左右と肩ベルトの3点で体を支えるシートベルトのこと。

腰ベルト



後向き取り付けの準備(2.5kg～9kgまでのお子さまには)

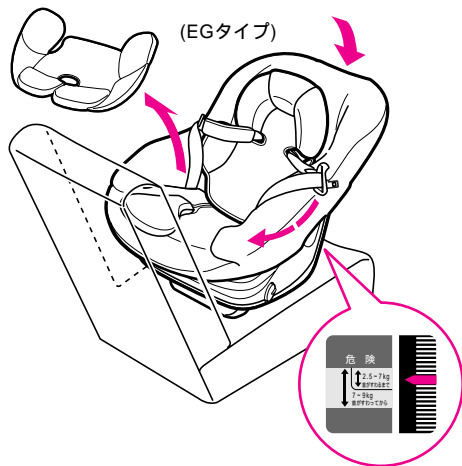
2.5kg～9kgのお子さまを乗せる場合には、後向きに取り付けます。前向きでは、絶対に使用しないでください。

インナークッションを取り付ける場合は、取り付け作業時に座面用インナークッションをはずしてください。

チャイルドシートのリクライニングを、最も倒した状態にします。(「リクライニングの使いかた」18ページをご覧ください)

取り付け時に角度チェッカーに角度が正確に表示されるように、車を平らな場所に駐車して、作業してください。

座席に、チャイルドシートを後向きに乗せてください。



ワンポイント



座席のシートベルトに巻き取り装置が付いている場合には、ベルトを全部引き出し、巻き取り口付近のシートベルトを洗濯ばさみなどではさみ、引き込まれないようにすると、取り付け作業が楽になります。

後向き取り付けの参照ページ

- 取り付け角度コントロールシステムの使いかた...25ページ
- 3点式シートベルトの座席に取り付ける場合...27ページ
- 2点式シートベルトの座席に取り付ける場合...31ページ
- ロックングクリップの取り付けが必要な場合...29ページ



警告

後向きで使用するときは、チャイルドシートのリクライニングを最も倒した状態で取り付けてください。立った状態ではしっかり固定できません。7kg未満のお子さまを乗せる場合には、必ずインナークッションを使用してください。

車への取り付けかた

2.5kg～9kgのお子さまには

取り付け角度コントロールシステムの使いかた

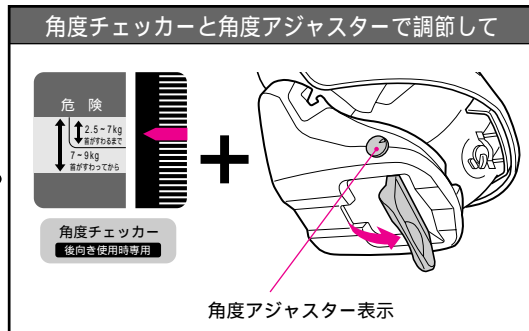
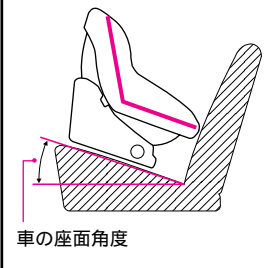
車の座面角度は、車種によってさまざまです。このためチャイルドシートの角度が不適切になる場合があります。このような場合には、「取り付け角度コントロールシステム」を使い、**最適な角度で取り付けてください**。取り付け角度コントロールシステムは、**後向き取り付け時の角度を調節する「角度アジャスター」と角度を確認できる「角度チェッカー」**のことで、車の座席にチャイルドシートを置いて適切な取り付け角度を確認することができます。

⚠
危険

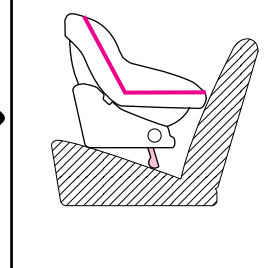
角度アジャスターは、後向きで使用してください。取り付け時には角度チェッカーでお子さまの体重と表示が揃っていることを確かめて使用してください。

角度チェッカーがお子さまの体重と異なる範囲をさしている場合は、必ず角度アジャスターで適切な取り付け角度に調節してから使用してください。また、赤色の部分をさしている状態では、絶対に使用しないでください。前向きで使用するときは、必ず角度アジャスターを収納してください。

車の座面角度がきつい場合には

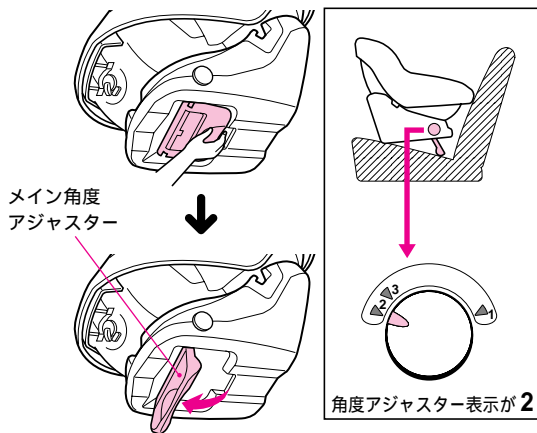


適切な角度に取り付けます



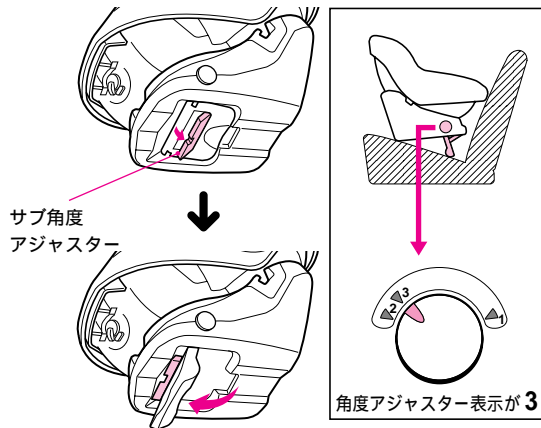
車の座面角度がゆるい場合も、角度チェッカーが「危険」をさします。46ページを参照のうえ、調節してください。

1 角度チェッカーの表示が、お子さまの体重と合っていない場合は、ベース底面の**メイン角度アジャスター**を引き出し、もう1度、車の座席に置きます。



2 角度チェッカーの表示がまだお子さまの体重と合わない場合は、さらに**サブ角度アジャスター**を引き出します。

誤使用を防ぐため、サブアジャスターにはベルトが付いています。



角度アジャスターを操作するときは、指をはさまないように注意してください。

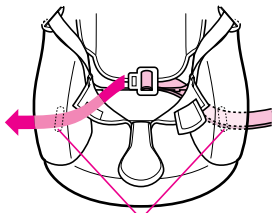
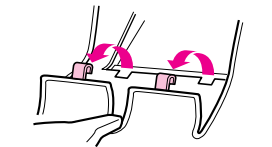
3点式シートベルトの座席への取り付けかた

- 1 車のシートベルトを後向き用シートベルト通し穴に差し込み、チャイルドシートの中を通して、反対側の後向き用シートベルト通し穴から引き出します。

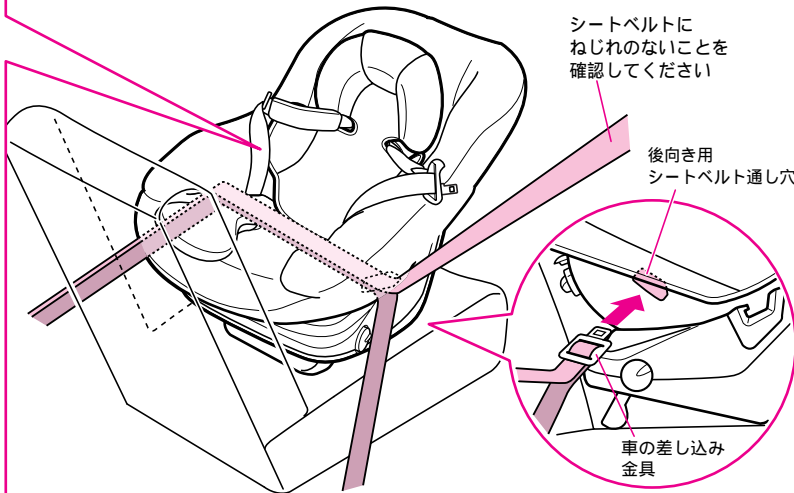


シートベルトを通す穴が、後向きと前向きで異なります。十分ご注意ください。

座面の2ヶ所のフックをはずして、シートクッションを開きます。



後向き用
シートベルト通し穴



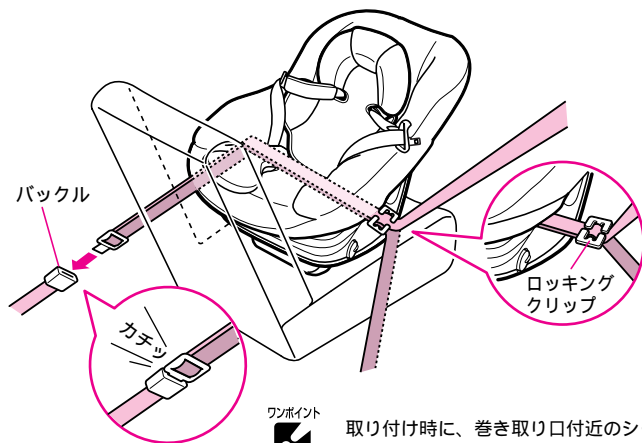
シートベルトに
ねじれないことを
確認してください

後向き用
シートベルト通し穴

車の差し込み
金具

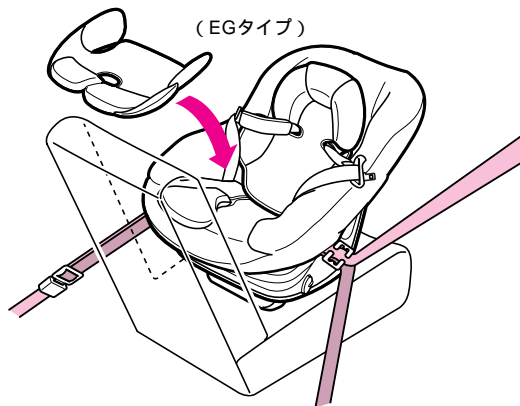
- 2** 車の差し込み金具をバックルに差し込みます。車のシートベルトの種類により(23ページ参照) **ロックングクリップ**を取り付けます。(ロックングクリップの取り付けかたは、29～30ページをご覧ください)

できるだけ後向き用シートベルト通し穴より低い位置に取り付けてください。



取り付け時に、巻き取り口付近のシートベルトを洗濯ばさみなどでとめた場合には、必ずはずしてください。

- 3** インナークッションを取り付ける場合は、準備ではずした座面用インナークッションを取り付けます。

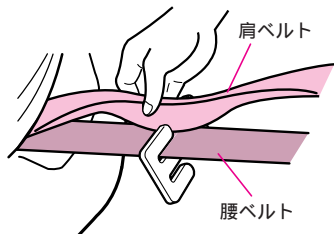


- 4** 最後に「後向き取り付け時の完了チェックのしかた」(33ページ)をお読みにになり、しっかり固定しているかを確認してください。

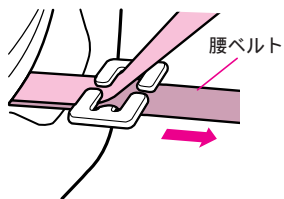
取り付け後、不安定な場合や取り付けづらい場合は44～46ページをご覧ください。

3点式シートベルトの座席への取り付けかた

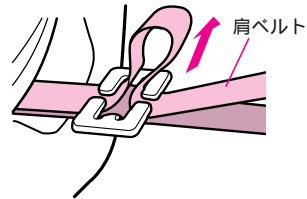
ロックングクリップの取り付けかた A



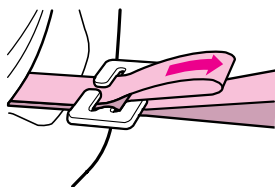
- ① 車のシートベルトを、腰ベルト、肩ベルトの順に、2つ折りにして、ロックングクリップの溝に入れます。



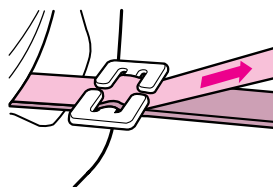
- ② 腰ベルトを、ベルトクリップのもう1つの溝に入れます。



- ③ 肩ベルトも、図のように片手が入るぐらいの輪ができるようにして、もう1つの溝に入れます。



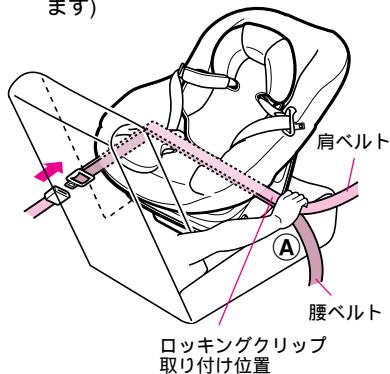
- ④ しっかり固定させるため、チャイルドシートの上から体重をかけて押さえ、肩ベルトの輪の部分を引きます。



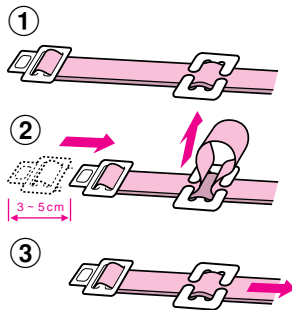
- ⑤ 肩ベルトを引いて、輪のたるみをなくします。

ロックングクリップの取り付けかた B

- 1 車のシートベルトを、後向き用ベルト通し穴に通します。
- 2 図のAの位置で、2枚のシートベルトを合わせてつかみ、バックルをはずして引き抜きます。(洗濯ばさみなどでシートベルトをはさんでおく、と、取り付けが楽になります)



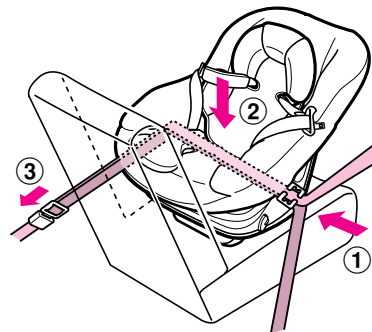
- 3
 - ① 2枚のベルトがずれないように、ロックングクリップを取り付けます。
 - ② 図のように、車の肩ベルトを引いて、ロックングクリップと差し込み金具の間を3～5cm短くします。
 - ③ ロックングクリップ上のたるみをなくします。



- 4
 - ① 再び、シートベルトをベルト通し穴から送り入れます。
 - ② 上から強く押しつけながら、
 - ③ バックルに差し込み金具を差し込みます。



バックルに差し込めない場合は、再度ロックングクリップの位置を調節してください。



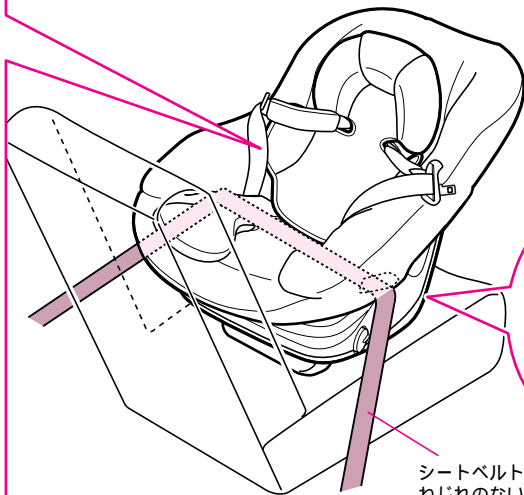
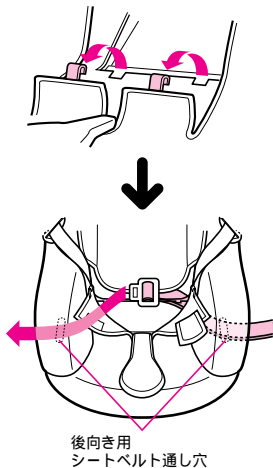
2点式シートベルトの座席への取り付けかた

- 1 車のシートベルトを後向き用シートベルト通し穴に差し込み、チャイルドシートの中を通して、反対側の後向き用シートベルト通し穴から引き出します。

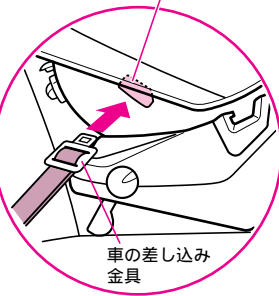
⚠
危険

シートベルトを通す穴が、後向きと前向きで異なります。十分ご注意ください。

座面の2カ所のフックをはずして、シートクッションを開きます。



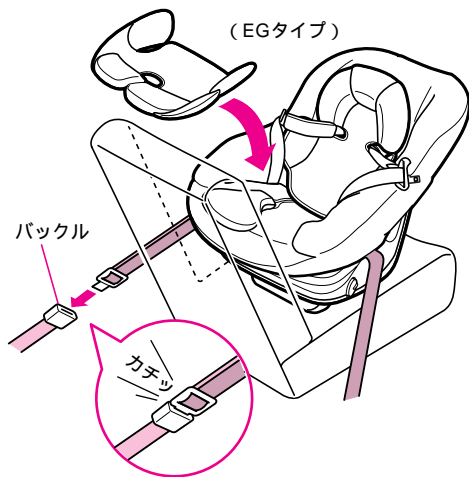
後向き用
シートベルト通し穴



車の差し込み
金具

シートベルトに
ねじれないことを
確認してください

2 車の差し込み金具をバックルに差し込みます。インナークッションを取り付ける場合は、準備ではずした座面用インナークッションを取り付けます。



3 最後に「後向き取り付け時の取り付け完了チェックのしかた」(33ページ)をお読みになり、しっかり固定しているかを確認してください。

ワンポイント



取り付け時に、巻き取り口付近のシートベルトを洗濯ばさみなどでとめた場合には、必ずはずしてください。

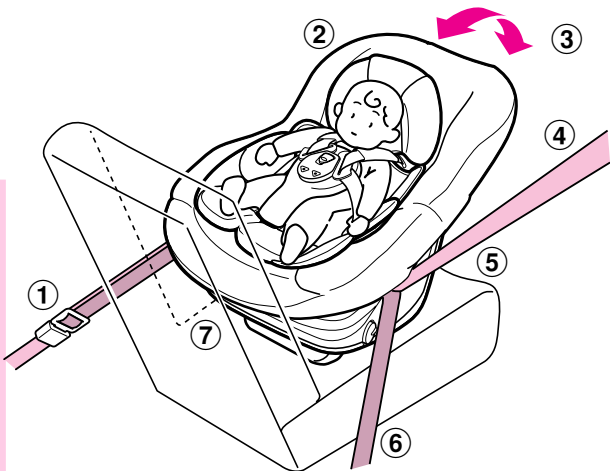
マニュアル式シートベルトがゆるむ場合には、シートベルトの2枚重なる部分にロックングリップを取り付けてください。(29～30ページ参照)

取り付け時に、不安定な場合や取り付けづらい場合は、44～46ページをご覧ください。

車への取り付けかた
2.5 kg ~ 9 kgのお子様には

後向き取り付け時の完了チェックのしかた

取り付けが終わったら、チャイルドシートがしっかり固定されているか、次のことを確認してください。



- ① 車のシートベルトの差し込み金具が、しっかりバックルに差し込まれていること。
- ② お子さまの体重が7kg未満の場合は、インナークッションを取り付けてあること。
- ③ 車の背もたれとチャイルドシートの接している部分に、手のひらが入るようなすきまがないこと。
本体を前後にゆすって、しっかり固定されていることを確認してください。
- ④ 取り付け時に、洗濯ばさみなどを使用した場合は、車のシートベルトの巻き取り口付近の洗濯ばさみなどをはずしてあること。
- ⑤ 角度チェッカーの表示が適切な角度であること。
- ⑥ お子さまが座っていても、車のシートベルトにゆるみがないこと。
お子さまが座ると車の座席のクッションが沈み、シートベルトがゆるむことがあります。
- ⑦ お子さまを座らせたら、必ずベルトロックレバーで幼児用ベルトをロックすること。
- ⑧ 差し込み金具がしっかりバックルに差し込まれ、差し込み表示が緑色に変わっていること。



これらの項目をチェックし、しっかり固定できない場合はロッククリップで車のシートベルトを締め直すなど再調節してください。それでもしっかり固定できない場合は、他の座席に取り付けてください。本来の機能を果たさず、危険をまねく恐れがあります。

前向き取り付けの準備(9kg～18kgまでのお子様には)

9kg～18kgのお子様を乗せる場合には、前向きに取り付けます。

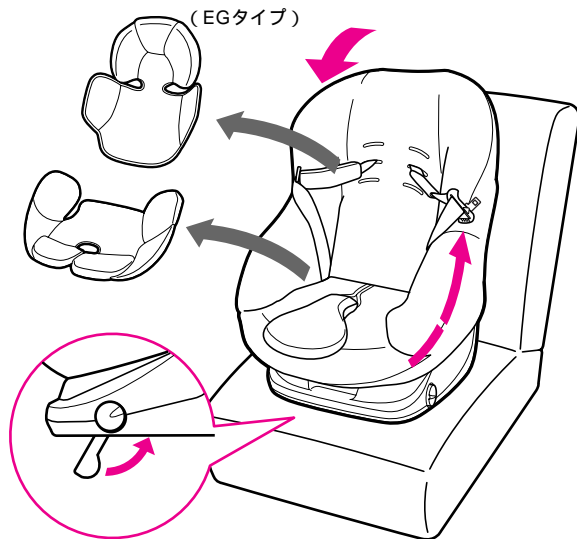
背面用、座面用の2つのインナークッションをはずしてください。

チャイルドシートのリクライニングを、最も立てた状態にします。(「リクライニングの使いかた」18ページをご覧ください)

角度アジャスターをベースの底面に収納してください。前向き使用では、角度アジャスターは使用禁止です。

車の取り付ける座席に、チャイルドシートの底面と背面をしっかりとつけて前向きで、置いてください。

幼児用ベルトのあまりを、ベース部と車のシートとの間にはさまれないように注意してください。



前向き使用時には、必ず角度アジャスターを収納してください。

ワンポイント



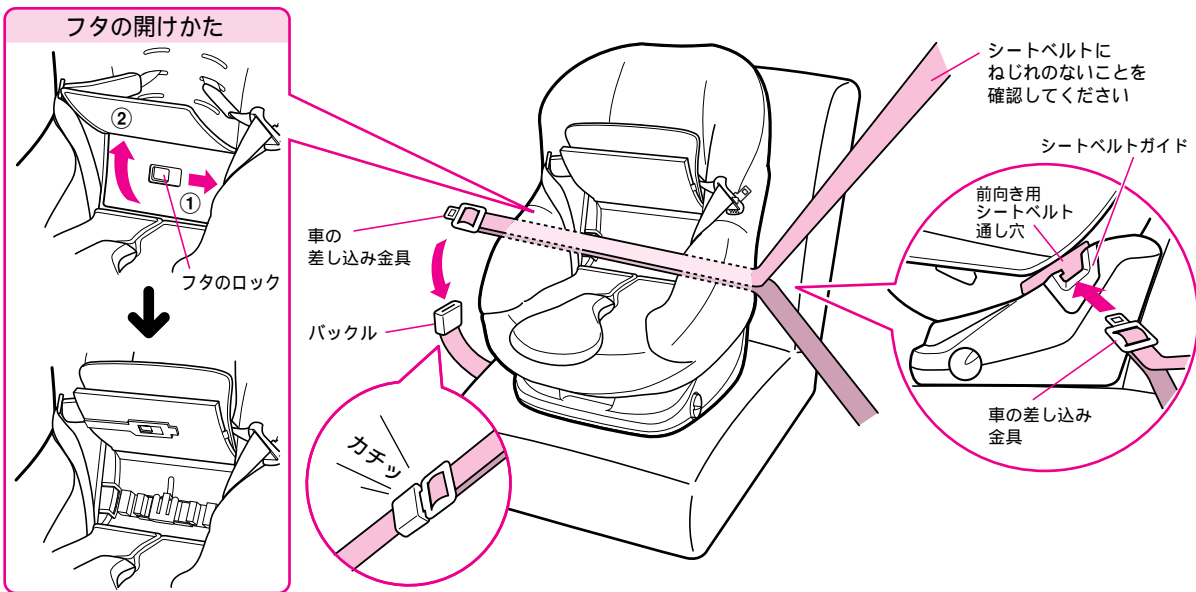
座席のシートベルトに巻き取り装置が付いている場合には、ベルトを全部引き出し、巻き取り口付近のシートベルトを洗濯ばさみなどではさみ、引き込まれないようにすると、取り付け作業が楽になります。

車への取り付けかた 9kg～18kgのお子様には

座席への取り付けかた (3点式/2点式)

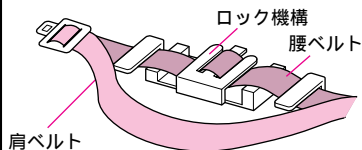
1 車のシートベルトを前向き用シートベルト通し穴に差し込み、チャイルドシートの中を通して、反対側の前向き用シートベルト通し穴から引き出します。

2 車の差し込み金具をバックルに差し込みます。

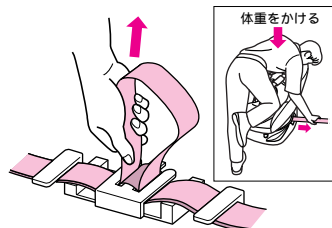


3点式シートベルトの場合には

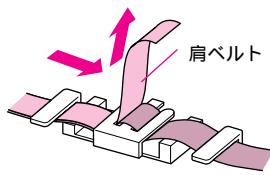
車のシートベルトを、図のようにフタ内部のロック機構に取り付けます。取り付ける座席によっては、差し込む向きが逆になります。



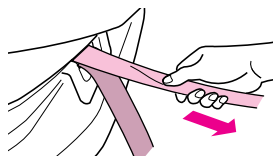
- ① 図のように、腰ベルトを車の差し込み金具側からはさみ、車の差し込み金具をバックルに差し込みます。



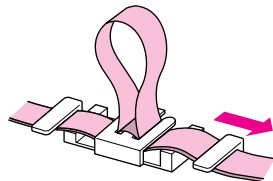
- ④ ベース底面と背面をしっかりと座席につけ、チャイルドシートの上から体重をかけて押さえ、肩ベルトを引きます。



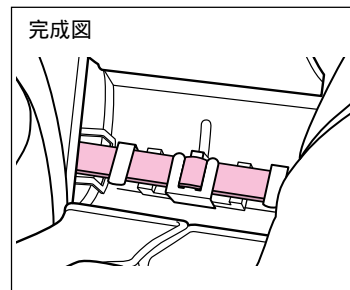
- ② 車の差し込み金具側から、肩ベルトをロック機構の中央まではさみ込みます。



- ⑤ チャイルドシートの外側から余った肩ベルトを引き出します。



- ③ しっかり固定できたら、肩ベルトを反対側のロック機構にはさみ込みます。

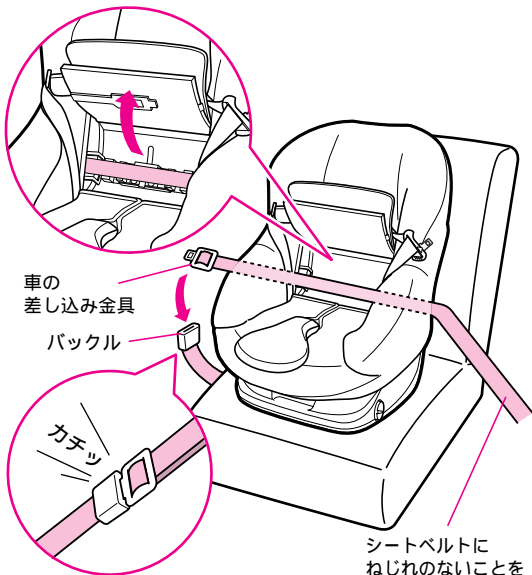


車の差し込み口などにより、ロック機構にシートベルトを通せない場合があります。このようなときは、29～30ページをご覧ください。ローキングクリップを取り付けてください。

座席への取り付けかた(3点式/2点式)

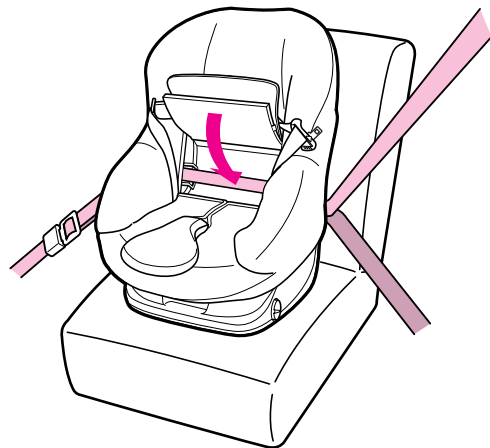
2点式シートベルトの場合には

ロック機構に合わせて、ねじれないように車のシートベルトを上のにせます。



シートベルトに
ねじれないことを
確認してください

3 しっかりとフタを閉めます。



4 最後に「前向き取り付け時の取り付け完了チェックのしかた」(38ページ)をお読みになり、しっかりと固定しているかを確認してください。

ワンポイント



取り付け時に、巻き取り口付近のシートベルトを洗濯ばさみなどでとめた場合には、必ずはずしてください。

前向き取り付け時の完了チェックのしかた

取り付けが終わったら、チャイルドシートがしっかり固定されているか、次のことを確認してください。



- ① 車のシートベルトの差し込み金具が、しっかりバックルに差し込まれていること。
- ② 車の背もたれとチャイルドシートの台座との間に、手のひらが入るようなすきまがないこと。
本体を前後にゆずって、しっかり固定されていることを確認してください。
- ③ 取り付け時に、洗濯ばさみなどを使用した場合は、車のシートベルトの巻き取り口付近の洗濯ばさみなどをはずしてあること。
- ④ お子さまが座っていても、車のシートベルトにゆるみのないこと。
お子さまが座ると車の座席のクッションが沈み、シートベルトがゆるむことがあります。
- ⑤ 角度アジャスター表示が1であること。
- ⑥ インナークッションが取りはずしてあること。
- ⑦ チャイルドシートのフタが確実に閉まるよう、上から強く押してください。
- ⑧ お子さまを座らせたら、必ずベルトロックレバーで幼児用ベルトをロックすること。
- ⑨ 差し込み金具がしっかりバックルに差し込まれ、差し込み表示が緑色に変わっていること。



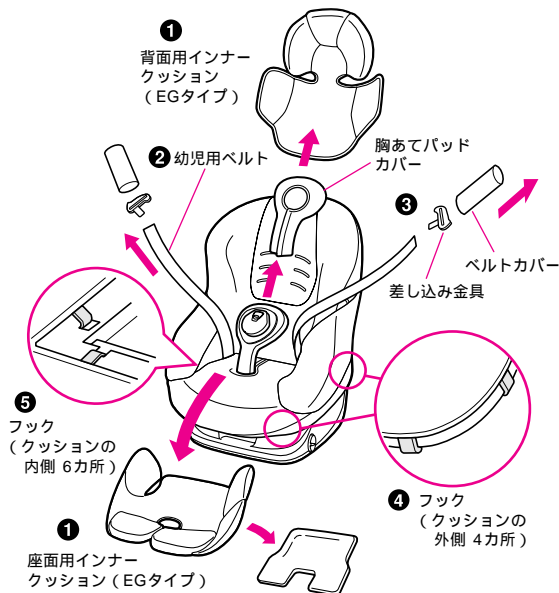
警告

これらの項目をチェックし、しっかり固定できない場合はロック機構で車のシートベルトを締め直すなど再調節してください。それでもしっかり固定できない場合は、他の座席に取り付けてください。本来の機能を果たさず、危険をまねく恐れがあります。

お手入れのしかた

シートクッションのはずしかた

- ① インナークッション(背面用、座面用)をはずします。
- ② 左右の幼児用ベルトを、本体裏側にあるベルト調節金具からはずし、肩ベルト通し穴から引き抜きます。
- ③ 幼児用ベルトから差し込み金具を引き抜きます。またベルトカバー、胸あてパッドカバーはマジックテープをはがしてはずします。(Sタイプのベルトカバーは筒状です。差し込み金具とともに引き抜いてください)
- ④ チャイルドシートの外側にある4カ所のフックをはずします。
- ⑤ 内側6カ所のフックをはずします。
- ⑥ 胸あてパッドのところからシートクッションをはずし、そのまま上に引き上げます。



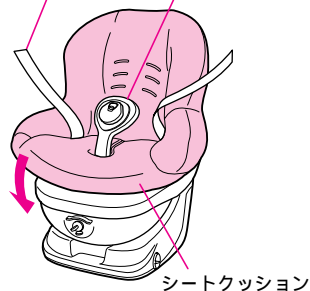
洗濯をするときは、インナークッションのなかのウレタンをはずします。



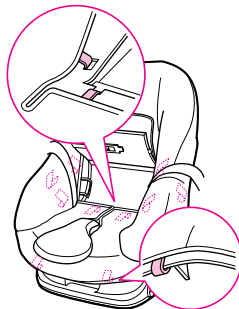
差し込み金具は、左右を確かめて、胸あてパッドのバックルに差し込んだままにしておくと、取り付けるときに簡単にできます。

シートクッションの取り付けかた

幼児用ベルト 胸あてパッド



1 シートクッションを本体の背の部分にかけ、胸あてパッドをシートクッションの中央の穴から通し、シートクッションを全体にかけ、幼児用ベルトをシートクッションの下から、ねじれないように表側に引き出します。

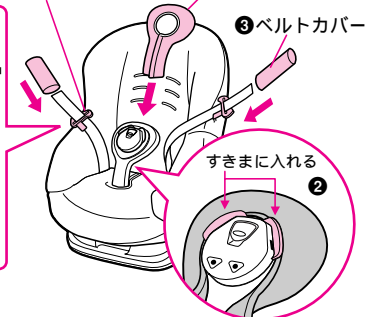
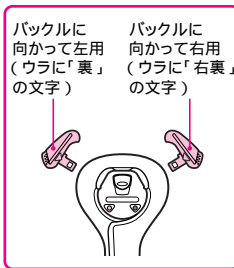


2 シートクッション中央のフタを開け、内側のフック6カ所と、シートクッション外側のフック4カ所をそれぞれ本体の溝にとめます。

①差し込み金具

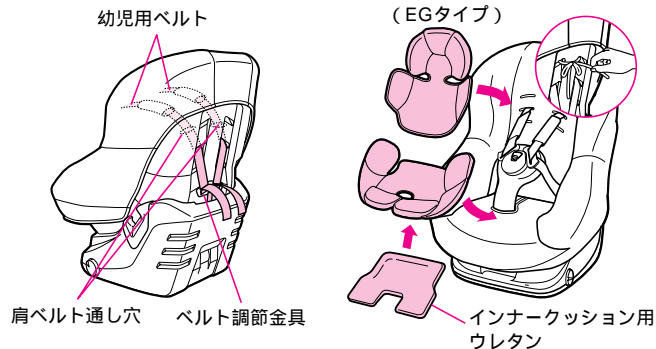
②胸あてパッドカバー

③ベルトカバー



3 ① 差し込み金具の左右、表裏を確認して幼児用ベルトに通し、
② 胸あてパッドにカバーをかぶせます。(このとき、必ずカバーのえりの部分を、バックルの後ろのすきまに入れてください)
③ 幼児用ベルトにカバーを巻き、マジックテープでとめます。(Sタイプは筒状のカバーを幼児用ベルトに通します)

お手入れのしかた



4 幼児用ベルトを肩ベルト通し穴に通し、ベルト調節金具に取り付けます。(ベルト調節金具への取り付けは、「肩ベルト通し穴の位置の決めかた」15ページをご覧ください)

5 インナークッション用のウレタンを入れ、インナークッションを取り付けます。背面用インナークッションは、肩ベルトより1段上の穴に通し、ひもを結んで固定します。

シートクッション、ベルトカバー、胸あてパッドカバー、インナークッションの洗いかた

洗濯時は次のことを守ってください。
インナークッション用ウレタンは洗濯できません。必ず抜き取ってください。

	液温は30℃を限界とし手洗いしてください。
	ドライクリーニングはしないでください。
	手絞りの場合は弱く、洗濯機脱水の場合は短時間で行ってください。 強く絞ると、シワが残ることがあります。
	日陰で平干してください。
	塩素系漂白剤は使用しないでください。
	アイロン掛けはしないでください。

蛍光増白剤を含まない洗剤を使用してください。

本体、幼児用ベルトのお手入れ方法

通常はかたく絞った布で水拭きしてください。汚れがひどい場合は、中性洗剤を水で薄めた液で汚れを落としてから水拭きし、日陰で乾燥させてください。



中性洗剤を原液で使用したり、ガソリン、ベンジンなど有機溶剤の使用はおやめください。本体および幼児用ベルトをいためる恐れがあり危険です。

保管のしかた

取扱説明書

取扱説明書(本書)は、よくお読みのうえ、シートクッション後ろ側のポケットに保管してください。

ロッキングクリップ

チャイルドシートを使用しないときは、シートクッション後ろ側のポケットに保管してください。

他のお客さまにチャイルドシートをお譲りになる場合は、取扱説明書とロッキングクリップもあわせてお渡しください。

本体

長期間使用しないときは、車から降りし風通しが良く、お子さまの手の届かない場所に保管してください。

製品仕様

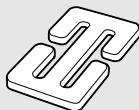
ネオシスファーストEG

商品サイズ：(W)470×(D)550×(H)690mm
商品重量：11.5kg
材質：本体…ポリプロピレン
シートクッション
表生地…ポリエステル
クッション材…ウレタンフォーム

ネオシスファーストS

商品サイズ：(W)470×(D)550×(H)690mm
商品重量：10.6kg
材質：本体…ポリプロピレン
シートクッション
表生地…ポリエステル
クッション材…ウレタンフォーム

ロッキングクリップ (EG/Sタイプ共通)



ロッキングクリップを紛失された場合は、店頭にてお買い求めいただけます。また、下記の方法で有料にてお求めいただけます。
(価格は2000年3月現在)

●お申し込み先

コンビ コンシューマープラザ
部品販売(相談)受付窓口
TEL：048-797-1001
FAX：048-798-6109
電話受付時間：10：00～17：00
(日・祝日・年末年始除く)

●ホームページでのご案内

http://www.combi.co.jp/soudan/faq_baby.htm

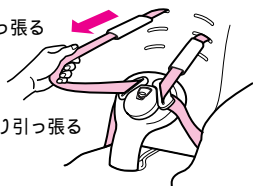
こんなときには

万一、幼児用ベルトがロックしたときの解除方法

チャイルドシートの前側から

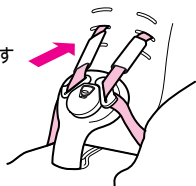
- 1 幼児用ベルトを手前に強く引っ張り
ます。
- 2 矢印方向にゆっくり戻します。
- 3 もう1度、手前方向に、ゆっくり引
き出します。

1 強く引っ張る



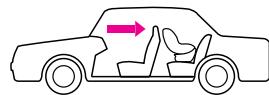
3 ゆっくり引っ張る

2 ゆっくり戻す

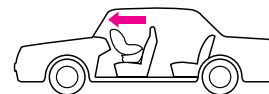


チャイルドシートを、より確実に固定する方法

後座席で、後向きに取り付けた場合
車の前座席を後ろにスライドさせ、チャイル
ドシートの背面に接するようにしてくださ
い。より確実に固定できます。



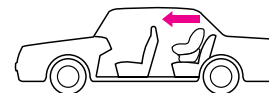
前座席に、後向きで取り付けた場合
エアバッグが装着された座席では、使用でき
ません。また、より安全な後ろ座席への取り
付けをおすすめします。



ダッシュボードとチャイルドシートの背面が
接するように座席をスライドさせてくださ
い。より確実に固定できます。

車種により、ダッシュボードに接しない場合が
あります。

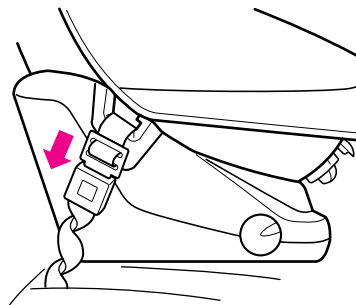
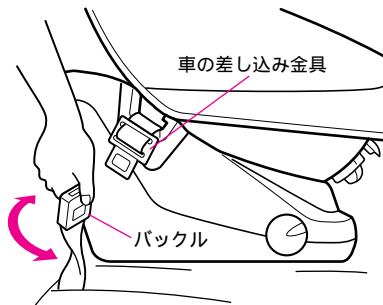
スライドできる座席に取り付けた場合
取り付け手順終了後、座席を前にスライドさ
せてください。より確実に固定できます。



エアバッグが装着された座席では使用しないでください。エアバッグの作
動による衝撃で、危険な状況になります。(装備されているのがサイドエ
アバッグのみの場合には使用できます)

車のシートベルトのバックルが、チャイルドシートのシートベルト通し穴の角に当たり、不安定な場合

短ベルト(バックルのついている車のシートベルト)がシートベルト通し穴の角に当たり、しっかり固定できない場合は、図のように対応してください。



- 1 差し込み金具をはずしてバックルを持ち、短ベルトに数回ひねりを加えて短くします。

- 2 もう1度差し込み金具をバックルに差し込み、固定します。



警告

ひねりを加えてもしっかり取り付けられない場合は、使用しないでください。本来の機能を果たさず、危険をまねく恐れがあります。

座面の角度がゆるく、角度チェッカーが「危険」をさしているときには(後向きの場合)

極端に座面の角度がゆるい座席では、角度チェッカーが「危険」をさします。

この状態ではチャイルドシートが倒れすぎていて、衝突時に本来の機能を果たさず危険です。チャイルドシートのリクライニングを1段起こした状態で使用してください。

